

様式第3号

議 事 録

会議名		令和3年度川西市総合教育会議(第2回)	
事務局(担当課)		企画財政課	
開催日時		令和4年3月14日(月)～令和4年3月28日(月)	
開催場所		書面開催	
出席者	委員	川西市 越田市長 川西市教育委員会 石田教育長、坂本委員、治部委員、佐々木委員、倉見委員	
	関係職員	石田総合政策部長、中西教育推進部長、山元こども未来部長	
	事務局	総合政策部企画財政課 今岡課長、高橋	
傍聴の可否		—	傍聴者数 —
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由		書面開催のため、後日会議内容をホームページで公表する	
会議次第		(1) 一年間の総括について (2) 来年度に向けた意見について	
会議結果		1、各教育委員からの意見について 2、教育委員会意見集約について 3、総括	

1、各教育委員からの意見について

令和3年度第2回総合教育会議 書面開催における意見（坂本委員）

1 1年間の総括について

学校ではコロナ 2年目でオンラインでの授業参加がかなり普及してきた様に感じられます。とはいえ、タブレット PC の持ち帰りによりランドセルや通学カバンがかなり重くなっており、負担が大きいと聞いています。現場での判断の問題であろうかと存じますが、デジタル教科書の導入(紙ベースの教科書はあったほうが良いと思いますが)など、荷物の軽減化に努めていただきたく存じます。

今年度は感染予防により仕方ないとはいえ、前年度に続き公民館活動、生涯学習、子育て支援の場が縮小してしまったことが残念に思います。市立幼稚園のあり方について、社会情勢の変化に伴い変わらなければならないのは理解しています。ただ、川西市立幼稚園ならではの良さ(費用面だけでなく、市立園での幼児教育のありかたなど)をもう少し前面に出していければよかったと反省しています。

PTA あり方検討会が終了しました。この3年間でPTA を取り巻く環境が大きく変わりました。今も大きく変わり続けています。あり方検討会が開催されたことでそれぞれの立場からの視点と意見を交わせたことは本当に有意義だったと思います。良い機会をありがとうございました。

2 来年度に向けた意見について

コロナの感染予防対策だけでなく、オンライン授業によるハイブリッド授業が定着して欲しいと強く願っています。学校に来て学ぶことは大切だと理解していますが、学びのスタイルを子ども自身が選択できることも大切だと考えています。校内フリースクールはもちろん、セオリア北部設置、夕方～夜のフリースクールなどを検討していただきたいと存じます。※公民館での学習支援もオンライン参加ができれば良いのではと思います。

コロナ禍における子どもたちの心のありようにも目を向けていただきたいと考えています。今は先生方も精一杯かと思いますが、子どもたちも精一杯頑張っていると思います。なかなか声のあげにくい子どもたちの聞こえにくい心の声を聞く、聞くようにする働きかけができればと考えています。

来年度秋から始まる中学校給食ですが、食物アレルギーがある生徒に対する関わり方の周知もお願いしたいです。中学校の先生方は学校給食が初めてになるので、喫食による急性のアナフィラキシーショック対応のご経験は少ないと思いますし、運動誘発性アナフィラキシーショックの危険性もかなり大きくなると思いますので、教育委員会からだけでなく市長部局からの働きかけをお願いいたします。

令和4年3月22日

川西市教育委員 治部陽介

令和3年度第2回総合教育会議 書面開催の資料

【テーマ】

(1) 一年間の総括について

1 @学校園所

・いじめ、問題行動、虐待などの事案の報告は例年に比べて少なめに報告されていた印象。コロナ禍で見えにくくなっていたのか、バランスの良い一年間だったのか調査したい。

・特別支援教育における、教育的指導方針&福祉的支援方針について、教職員間で認識のずれや価値観のずれが生じている印象。

・おとなしく静かに着席している児童生徒が理想的なのか…？教職員の問いかけに望ましい回答をする児童生徒が理想的なのか…？学校園所で、無気力状態や精神的不調をかかえている児童生徒をサポートすることができるのだろうか
と疑問。

・主体的な学び方や、個別最適な学び方について、学校園所の認知度は高まってきた印象。しかし、子ども主体な学び方を指導&支援するには、教職員の知識とスキルを要するため、継続した教職員への働きかけが必要。

2 @市教委事務局

・フリースペース化、書類のデータ化、オンラインツールを使用したミーティング、労働時間適正化への配慮、意見交換しやすい職場雰囲気作り等、労働環境適正化のためにさまざまな取り組みを実施。

・学校園所における通信機器のICT化、学校運営協議会や地域学校協働活動の推進、不登校児童生徒への教育機会の確保の推進、教職員の労働環境適正化による持続しやすい就業を意識した環境整備等にも着手。

(教職員間の対人関係支援の実施有無については追って事務局に問い合わせたい。)

(2) 来年度に向けた意見について

1 特別支援教育の充実：

- ・特別支援教育の最前線にいる教職員の意見をうかがい、特別支援教育の充実のために、何が必要なのか、今一度の情報収集。

- ・他職種での連携を図り、生物-心理-社会の3つの視点から個人をアセスメントする仕組みの再検討。

- ・RTIモデルに代表される、指導や介入方法を最適化していくシステムの再構築。

- ・対人的ソーシャルスキルや感情教育に代表される、社会情動的教育を児童生徒が学ぶ機会の充実。

2 メンタルヘルス不全への予防的介入：

- ・学校におけるメンタルヘルスのスクリーニングの導入。

- ・感情教育の充実（保健体育教員、養護教諭との連携も）。

3 居場所となる学校への環境調整：

- ・不登校傾向を示す児童生徒を孤立から守り、居場所となる学校に必要な物理的&人的な環境調整。

- ・留守家庭児童育成クラブへの物理的&人的な環境調整。

4 幼児教育のあり方と幼保小の連携：

- ・ 幼児教育施設における、乳幼児の発達過程に見合った物理的&人的な環境調整。

- ・ 実行機能（高次脳機能）の成長を支える幼児教育のあり方と、幼児期～学童期～青年期（思春期）を実行機能の視点で考える研修の機会。

令和3年度第2回総合教育会議 書面開催

テーマ 「一年間の総括、来年度に向けた意見」 佐々木委員

昨年度に引き続き、感染症対策のための厳しい制約のある中、教育現場（特に学校園所）においては、こどもたちは我慢しなければならないことも多く、教職員の皆さんも多くの苦労を重ねた1年であったことと思います。

ただ、今年度は、オンラインを用いた授業方式も定着しつつある様子を垣間見ることができました。万全の態勢で事柄を進めていくことはもちろん重要ですが、できることから、また、できる所からでも学びを止めない方法を実践していく臨機応変な柔軟な機動力も同様に必要であることを改めて認識しました。

年度後半、特に年が明けてからは、学級閉鎖等も相次ぎましたが、落ち着いて対策が立てられてきたように思います。

管理職訪問などで感じたことは、マンパワーが不十分で職員への負担が重くのしかかっているのは事務局だけではなく、学校現場でも懸念されるという点でした。

教職員のワークライフバランスにもしっかりと配慮できるような運営ができないものかと思います。周りの大人が幸せでなければ、こどもたちに余裕のある対応をすることが難しいことは言うまでもなく、結局のところ教職員の就労環境を整えることもこどもたちの幸せにつながるものと考えます。

来年度も、限られた財源・人材をうまく活用し、コロナ禍で制限された学校生活ではあるけれど、知恵をしぼり協議し、大人もこどもも充実した生活を送ることができる体制作り・環境作りのサポートができればと思います。

以上

令和3年度第2回総合教育会議 書面開催 (倉見委員)

(1) 1年間の総括について

私は10月からですので、この半年間で感じたことを申し上げたいと思います。

川西市教育委員会は、石田教育長のリーダーシップの下、しっかりやっている、というのが私の率直な印象です。

市長さんにも、予算や人員措置への配慮などから、教育に大変ご理解をいただいております。

一方、私の方は、定例会や協議会、懇談会以外で関わることができなくて、大変申し訳なく思っています。

(2) 来年度に向けた意見について

以下は、自戒の念を込めて申し上げます。

①協議会などで、突っ込んだ質問に対して、明確な回答が得られない場合がたまに見られます。

管理職は特に「なぜこの事業を行うのか」といった事業の目的を常に意識し、前例踏襲に陥ることなく、状況の変化をみて、目的を達成する手段を見直し（改善）していくことが大切だと思います。

②事が起こってから慌てることがないよう、危機管理の意識を持ち、想定外の事態にも備えることが大切です。

2、教育委員会意見集約について

令和3年度第2回総合教育会議書面開催に向けての教育委員会の意見集約

石田教育長

1. 令和3年度の総括について

(1) 新型コロナウイルス感染拡大防止

- ① 新型コロナウイルス感染拡大防止対策の影響を受けて、学校園所の通常運営が難しく、また感染拡大の波にそれぞれ違いがあり予測も難しかったために、行事などを含めた教育・保育課程の実施の中止・変更の対応に苦慮した。
- ② その中で学校においては、昨年夏の第5波からではあったが、オンラインを用いた授業方式を他市町に先行して実施したことによって、教職員の意識や実践に積極的な取り組みが見られたのは大きな収穫であった。その後、定期的にボトムアップの研修を実施したことによって、年明けの第6波に関しては比較的円滑にオンライン学習を進めることができた。また、環境整備についても市長部局の理解と支援を受けてその充実に努めることができた。

また、オンライン学習の手法を自宅待機や不登校の子どもたちへの支援として活用することができた。
- ③ 第5波の状況を振り返り、第6波に向けて早急に新型コロナのプロジェクトチームを立ち上げ、対応のための準備に取り組むことができたのは大きな成果であった。また、学校園所におけるコロナ対応のために必要な予算・人員措置を配慮していただいたことは、現場の職員にとっても子どもたちにとっても大きな支援となった。
- ④ いじめ、問題行動が例年より少ない状況ではあるが、その要因がコロナ禍で見えにくくなったのか、教育保育現場の改善によるものか、についてはどちらかとは言い難い。人と人とのつながりや主体的活動の制約などについて、子どもたちの実態を把握する体制が十分でなかった。子どもたちが自分たちの思いや考えを表現する場の設定が難しかった。
- ⑤ コロナ禍によって、学校園所のデジタル化が急速に進みつつある。子どもたちの学びや育ちのツールとしてだけではなく、継続的に横断的に成長を見守る体制や教職員の働き方改革などのついでにスタートを切ることができた。
- ⑥ 国の動きに合わせた事業やコロナ禍を含めた緊急の対応が多く、事務局全体として非常に余裕のない一年となってしまった。人材配置・人材育成に余裕をもって臨める組織づくりやマネジメントについて、さらに協議を重ねて実行していく必要がある。

(2) 教育・保育

- ① 教職員等様々な人員未配置が学校園所の現場に大きな負担をかけた。令和3年度

の組織再編によって次年度の人員配置には大きな改善が見られた。

- ② PTAあり方検討会が終了したが、3年間でPTAを取り巻く環境が大きく変化している。検討会の開催により、それぞれの立場からの視点と意見を交わせたことは有意義であった。保護者や地域が学校を通して学ぶことができる体制として、学校運営協議会や地域学校協働活動の整備や充実に向けた取り組みを進めることができた。

2. 来年度に向けた意見について

(1) 子どもへの支援に関することについて

- ① コロナ禍における子どもたちの心のありように重点を置いて、子どもたちのアセスメントにチームとして対応することや客観的な調査方法などを活用した取り組みを進め、メンタルヘルス不全への予防策を構築する。
- ② こども福祉との協働により、健康・福祉・教育（保育）が連携し、系統的で継続的な子どもの支援ができる体制を整備する。特別支援教育における教育保育課は来年度も必須である。
- ③ アセスメントをもとに多様な子どもたちに対応するため、子ども自身が選ぶことのできる居場所・学びの場を設定する。
- ④ 運営・研修等を含め、現場を中心とした幼児教育・保育と学校教育のさらなる連携を深めるとともに、事務局においても指導主事・行政職員がそれぞれの専門に埋没することのないよう、協働できる体制を整備する。

(2) 教職員に関することについて

- ① ITを活用した業務改善とともに、ウィズコロナ・アフターコロナを意識した学校園所の業務改善に努め、ワークライフバランスへ配慮した運営を進める。
- ② 食物アレルギーの生徒に対する対応など、中学校給食の円滑な運営体制を構築する。
- ③ 法的なコンプライアンスを含め、危機管理の意識を持ち、想定外のことにも備えることのできるリスクマネジメント・クライシスマネジメント体制のための研修を推進する。

(3) 環境整備について

- ① 恒常的に、対面式授業とオンライン授業によるハイブリッド授業の定着を進める。加えて公民館等生涯学習での学習支援もオンラインを活用する。
- ② 今年度の体制を継続して業務スケジュールや方法を検討し、人材確保・人材育成に努める。

3、総括

令和3年度第2回総合教育会議 書面開催について（総括）

越田市長

まずはコロナ禍の1年間にわたり、川西市の子どもたちを支えて頂いた石田教育長ならびに教育委員の皆さん、教育委員会事務局や学校現場の皆さんに心から感謝申し上げます。

令和3年度は、緊急事態宣言下においてオンライン授業を積極的に進めるとともに「学校園所コロナ対応プロジェクトチーム」を設置するなど、コロナと向き合った1年となりました。「今まで通り」が通用しない中で、市長部局とも連携しながら乗り越えることができた1年であったと感じています。

また、中学校給食の準備や中学生への学習支援の実施など、新たな施策についても着実に進めていただきました。

令和4年度に向けての取り組んでいただきたい課題について、申し上げます。

1. 第6次総合計画の策定にあわせた川西の教育の理念の再構築

私が市長に就任して4度目の予算編成が終わりました。このコロナ禍において、川西市政の改革を進めてまいりましたが、この難局の中だからこそ、私は「政策は子どもたちから始める」という思いをより具体化させていきたいと思っています。

もちろん、依然として厳しい財政状況は続いており、限られた財源の中大きなことは言えませんが、それでも教育環境の充実をはじめとした子ども施策については、優先順位を高く、今後さらに加速させていきたいと考えています。

具体的な課題の解決策や政策の立案については、教育行政の責任者である石田教育長や教育委員の皆さんとの合議の中で進められていくべきものですが、川西市政における教育や子ども施策に関する基本的な理念や方向性については、市と教育委員会のみならず、市民が共有していく必要があります。特に現在の「川西の教育」で示されている「めざす人間像」については、多様性を求める私の価値観とは乖離した記載も見受けられます。石田教育長とは教育に関する理念や方針について共有できていると考えていますが、それは「川西の教育」として明文化されているものではありません。

したがって、第6次総合計画の策定にあわせ、総合教育会議での議論を中心に「教育大綱」の策定に向けた取り組みを進めていきたいと考えています。

2. インクルーシブ教育の推進について

詳細については、今後教育大綱の議論の中で進めていくところですが、改めて多様性や包摂は私が市政を進めるうえで大切にしている価値観です。したがって、インクルーシブ教

育の推進については、持続的に取り組みを進めるため川西市教育の柱の一つとして明確に位置付けると同時に、早急に対応する必要性があると考えています。令和5年度当初予算において事業を具体化することを期待しています。

また、令和4年度より障がい児の福祉分野をこども支援課に移管をしました。学校現場におけるインクルーシブ教育だけでなく、乳幼児から大人になる段階において適切な療育などの支援や家族への支援施策なども具体化することを期待しています。

3. 教員の働き方改革

令和4年度より、教育委員会事務局においても教員の働き方改革については本格的に取り組みが進められますが、現状では待ったなしの課題であると認識しています。教育委員会の人的支援や業務の効率化への支援は当然のこと、学校管理職のマネジメント力の向上や教員一人ひとりの意識改革など、学校現場における全ての立場から教員の働き方改革を「自分事」としてとらえた取り組みに期待しています。

4. 保護者や子どもと、教育員会や学校との対話の場づくり

コロナ禍では、日々前例がない中で判断することが求められています。特に、新型コロナウイルス感染症への対応については、保護者の考え方も多様であり、一つの決定に対しては必ず賛否が出てきます。当然ながら、教育行政の最終的な決定は石田教育長が行い私はそれを基本的に支持する立場です。一方で、その決定のプロセスにおいて、必ずしも保護者や子どもたちの意見が十分に聴取されていなかったケースも多いことから、保護者や子どもたちに意見を聞く仕組みも必要だと考えています。現在、学校協議会や地域学校協働本部の取り組みが進められていることから、保護者や子どもたちが学校運営等に参加できる仕組み作りが進むことを期待しています。

会議の事項を記録し、相違ないことを認めたので、ここに署名いたします。

令和4年4月27日

川 西 市 長 越 田 謙 治 郎

川西市教育長 石 田 剛